

# 1. 調査報告概要表

作成日 平成20年11月18日

## 【評価実施概要】

事業所番号	広島県 第3470205232号
法人名	株式会社 ハーモニー
事業所名	グループホーム ハーモニー横川
所在地	広島市西区楠木町1丁目12番2号 電話 082-291-8400
評価機関名	特定非営利活動法人 医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成20年11月13日

【情報提供票より】平成20年10月8日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 10 月 1 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	10 人
利用定員数計	18 人
常勤	8 人
非常勤	2 人
常勤換算	9.275

### (2) 建物概要

建物構造	重鉄骨 造り
	3階建ての 1階 ~ 3階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,500 円	その他の経費(月額)	64,200 円	
敷金	有( 150000 円)			
保証金の有無(入居一時金含む)	有( 無 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	円
	または1日当たり	1100 円		

### (4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	2 名	要介護2		12 名	
要介護3	4 名	要介護4		0 名	
要介護5	0 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 82 歳	最低	65 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	福島生協病院 平岡内科クリニック 中谷歯科クリニック 横川クリニック
---------	------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームハーモニー横川は認知症高齢者への深い理解と共感を持たれている開設当初よりの管理者と運営理念「自分たちの大切な人をここで生活させたいと思える様な家を作ろう」を合言葉に一致協力的な職員に支援されている「家族」という言葉が似合う明るいホームです。入居者の特性が一人ひとり把握され其の特技が活かされた種々の作品は日常生活にも生かされ、明るい生活感が窺えます。横川駅へは徒歩圏内に位置し、交通買い物には至便であり、近くには近隣の人々が憩う公園があり毎日の散歩時には、地域の人々との交流が出来る格好な場所となっている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を真摯に受け止め地域との交流の進展が受け取れ、ホーム運営のサービスの向上についても入居者の「ほほえみ」を支援する努力がされていることが窺えた。前回の評価に示されている「ホーム便り」もしくは個人宛の簡単な「暮らしづくりのお知らせ」など発行されることを期待します。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	管理者と職員は自己評価の項目をサービスの向上の機会と捉えられて、真剣に対処され、反省点を見つげられて評価がされている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	運営推進会議のメンバー町内会長、民生委員、地域包括支援センターのケアマネージャー等地域に直結された方々が、ホームの運営に大変協力的であることを、ホームの今後の地域交流に一層生かされることが期待されます。(1例として町内会に加入することによって地域防災の情報と協力を得られる。徘徊された入居者の捜索の協力など。)
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	日常訪問の少ない家族の為にも、請求書送付時等に個人的に日常生活の様子や推進会議の内容などを付加されることで、家族との信頼関係がより進展されることが期待されます。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域のお祭りに参加されたり、ホーム1階の広い地域交流スペースをホームの行事や音楽療法、子供会行事等に一層効果的に活用され地域に喜ばれるホームとなることが、入居者の安心安全につながると期待されます。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	立地的な好条件を活かされ、近隣の公園への散歩、買い物等外出の支援を多く取り入れ地域との交流がされ、引きこもりのない「ほほえみ」の理念に向かって努められている		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	認知症への深い理解と共感を持った管理者を中心に職員全員のコミュニケーションが良好で「障害を持つ方とその家族にほほえみの家を作ろう」という理念の実践に努められている		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	公園への散歩や買い物等の時は地域の方との会話の機会を進め親近感を持たれている。音楽療法の時間には町内会長や民生委員の呼びかけで地域の高齢者も参加される。		ホーム1階の広い地域交流スペースをより一層効果的に活用されることを期待します
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は自己評価項目をよく理解し、日常業務の重点目標とされている部分も窺われる。外部評価に対しても協力的かつ反省点を問う姿勢で受け止められている。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では主に生活状況の報告や取り組まれた行事の効果や結果について報告している。外部評価の結果についても毎回終了後に報告し検討されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営上の疑問点等は市役所に直接質問し法律に沿った正しい運営に努めている。地域包括支援センターとも密接に連絡を取って度々相談に乗ってもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面談や、主には電話で個々の家族と情報の交換をして家族の意見を汲み取り、日々の支援に反映している。金銭の管理はホームとして行っていない。		請求書送付の時、1か月間の日常の様子などのお知らせを加えられると、家族はホームとの親密度が増され双方の理解が深められる。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の前には家族より要望などを事前に聞き取りをして議題に取り入れている。家族の訪問時には職員との面談を出来るだけするように努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホーム開設以来勤務している職員が殆ど(8割)で異動による精神的ダメージは表出していない。入居者の家族より職員の支援力に対しては大変信頼を得ている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の項目に合った職員を臨機応変に研修会に出席してもらい職員のスキルアップに繋げている。各種の研修の出席は勤務時間として扱う事で職員の向上心が養われ、毎年数名が資格試験に合格されている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホーム間で交流会を持ち管理者ばかりでなく職員も出席の機会があり勉強会や交流会、相互訪問等を行い、ホームのサービスの向上に役立させている。熱意のある職員は個人的にも友人のいる他のホームを訪問をして学びの機会を作っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	見学やホームの行事に参加したり、体験入居を経験され職員や他の入居者と顔馴染みになられるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	入居者の持たれている技能が生かされて、個人が制作された、のれん、ぬいぐるみ、職員と共同制作である大型の壁掛け等が豊富にホーム内を彩って、明るいアットホームな雰囲気が覗える。製作に当たり共に過ごす喜びや完成の喜びが伝えられた。食事に当たっても入居者の要望を聞き取り、発案者を交えて買い物に出かけるようにしている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	基本的には入居者に対して担当職員が決められ、日常の生活の中から希望や意向をくみ取るようにしている。時折入居者本人と家族の思いと異なる場合もあるが、出来るだけ本人本位になるように検討を重ねて調整している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	入居前の生活歴を理解した上で担当職員他ケアスタッフの意見を重視し、本人家族を交えた話し合いの上で介護計画を作成している。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	状態の変化に伴い介護計画の見直しは家族と話し合いを持った後に行っている。個々に適合した支援が保たれているため開設以来介護度の変化は少ない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体である医療機関より精神科医師の月2回往診診察、同系列のホーム長(理学療法士)に指導を依頼することもある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所を機に可能な限り協力医院が掛かり付け医となり、定期的に往診を受けられる支援をしている。往診専門の歯科医の往診を受けている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化した場合の説明をし、本人と家族の意向を聞き取りつつ、母体医療機関との連携も視野に入れつつ方針を決めてもらうようにしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の記録書はロッカーに施錠の上保管されている。職員が入居者個々の行動を家族を看る視点で確実に察知しトイレ誘導や室内での移動の動作に寄り添っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中個室で過ごされる入居者はほとんどなく、日当たりのよいリビングで職員と共に手芸をする方、長椅子でテレビを楽しまれる方、夕食の下準備を手伝っている方等多様で自由な雰囲気が保たれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員が家族的な親しい関係である中で、食事は職員がテーブルの周りで見守るのみであることが、静かで固い雰囲気となっている。ほとんどの方が食事の時間が短時間で終わっている。		家庭的な生活を望むことの中には、食事を職員と共に楽しむことも必要かと思われる。職員全員でなくても当番制等で共に同じテーブルを囲み会話が交わされる食事時間が望まれる。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴介助は安全確保のため1対1で行う、職員のシフト上入浴パターンが大体に決められているが、本人の希望や体調で変更したり、要望通りになったりしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	全体的に介護度の現状維持が保たれている為、買い物、散歩は日常の暮らしの一部となり、洗たくや手芸等の役割分担が長期にわたり持続され、入居者は役割を自覚されている方もある。手芸品は外部からの訪問者にも賞賛を得ている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者は外出を喜ばれ、晴天の日は殆どの入居者を日常的に近隣の公園に散歩に出かける支援をしている。当公園は近隣地域の災害避難場所の指定地でもあり、今後の避難誘導にも役立てられる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は希望者のみ施錠。階段、玄関等は町中に位置しているため安全確保の為、家族の要望を受けて施錠している。1日1回の外出支援をする事でストレスの防止をしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日頃より職員間で消火活動や誘導訓練をしている。入居者は日頃の階段歩行でのリハビリや公園への散歩を訓練の一助となるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分補給、水分量のチェック表が作られ申し送りにも活用している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者と共に行われている室内清掃は清掃の本職を感じさせるように大変清潔に行われている。入居者と職員の合作による季節の装飾品は大作もあり入居者の達成感を感じさせる作品である。昼間は自室で過ごされる入居者はなく各自お気に入りの椅子やソファで寛いでいる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には自宅より持ち込まれた家具や仏壇を置かれて個性的である。入居後に作られた自作の手芸品を飾って楽しまれている部屋もあった。		